

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

31練馬区立光が丘夏の雲小学校



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫の視点に沿った工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○教員は「分かる喜び」「できる喜び」「表現する喜び」を味わえる授業を行うように努め、児童に確かな学力を付けることを目指す。 ○ICT機器やタブレット端末を使用して「分かる喜び」「できる喜び」「表現する喜び」の実現を図る。 ○3～6年生の算数で、少人数指導加配教員を活用した習熟に応じた少人数指導を計画的に行う。また、学力向上支援講師を活用した徹底した基礎・基本の定着を目指す。また、3年生以上の学年では、交換授業や一部教科担任制の実施、グループ編成の工夫を行うなど、複数で児童の指導に当たる。 ○「夏の雲小のきまり」の定着を図り、学習規律を保った授業を実施する。 ○児童一人一人の学習状況を的確に把握するために指導記録等を取り、個に応じた適切な支援を行うことによって、達成の喜びを味わわせる工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領を踏まえた授業時数と指導計画に基づき、授業を実施する。 ○週ごとの指導計画の作成・提出により、学習指導計画の具現化を図り、見直しをもって指導を行うとともに授業時数確保を図る。 ○学年推薦図書を紹介等を行い、読書指導の充実を図る。 ○体力テストを実施し、児童の体力を的確に把握するとともに、体力向上に向けた取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領が示した主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。全体や個を意識した質の高い授業を目指すために以下の方策を実施する。 ① 授業観察の充実を図る。(毎日少しの時間でも全学級を見て回り、適宜指導を行う) ② お互いが授業を見合える環境づくりをする。 ③ 主任教諭によるOJTの充実を図る。 ○月1回以上の校内研究会を設定し、研究の指針を明確にして共通認識の下で研究活動が行えるようにする。また、分科会内等の授業も含めて、一人一回は研究授業を行う。 ○中学校と互いの授業を参観し合うなど、小中一貫の視点をもって、研究を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○記憶に頼らず、記録に基づいた適正な評価を行う。また、毎時間、ねらいと評価を明確にした授業を展開する。 ○意図的・計画的な学習活動と評価を行うために、年間学習指導計画・評価計画を作成し、各学級等では児童の実態を踏まえて学級経営計画・教科経営計画を作成する。 ○児童自らが学習状況を的確に把握し、意欲をもって積極的に学習活動を行うために、自己評価活動の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習を定着させるために、タブレット端末のドリルパークなどを積極的に活用し教師が学習の進捗を確認する。 ○図書館支援員との連携を図るとともに保護者による読み聞かせを読書活動の充実に生かす。 ○読書月間や読書旬間の取組として、全校で読書の継続的指導を行い、読書週間の定着を図る。 ○地域協力員の協力のもと外国語活動、外国語科の充実を図り、英語教育の向上を目指す。また、2学期に実施される4技能検定においても地域協力員の協力を仰ぎ、技能向上を目指す。 ○放課後未来塾において児童の基礎基本の力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区別協議会や部活動体験の実施、小中一貫教育研究グループによる研究成果の活用、研究会への参加等を通して光が丘第三中学校との連携を図る。